

政策対談

野党第一党の代表である立憲民主党の代表に就任したフード連合政策顧問の泉健太衆議院議員。課題が山積するなかで党をどのように導いていくのか、またフード連合の政策をどのように捉えているか、産業政策委員長の松山副会長、社会政策委員長の白山副会長と議論を交わしました。(対談は2月9日実施)

泉政策顧問

昨年の10月に衆議院議員選挙があり、皆様のお力添えもあり無事に8回目の当選をすることができました。地元京都でも支えていただきありがとうございます。その1か月後には党の代表に就任し、臨時国会を経て、激動のなかで1月からの通常国会に臨んでいます。そんな中で、野党第一党である立憲民主党の役割が重要であると改めて感じています。18歳以下への10万円給付を例にとっても、我々が事務費の無駄やクーポン支給の煩雑さの問題を指摘し、現金一括給付への転換を訴えなければ、未だに多くの家庭が受け取れない可能性がありました。また、いわゆる「ひとり親世帯」への給付については、約4万人の子どもが受け取れない状態にあつたなか、我々が指摘をし、政府は方針を変え、2月末には給付されることとなりました。政策立案が追及か、と二者択一のように議論されているが、両方大事だと思えます。政府、与党の問題点を鋭く指摘し、そのうえでより良い政策を提案し、論戦を経て変えていく。この役割において野党としての本領を發揮していきたいと考えています。その際に、国民目線、生活者目線、そして働く者の目線で少しでも皆様の生活を良くしていくという姿勢で取り組んでいきます。

今国会では「成長と分配」に焦点が当たっています。しかしながら、岸田政権の新しい資本主義では、現時点で従来のアベノミクスとの違いや具体策を見いだせていません。私たち立憲民主党は、低成長の時代においても、中間層の可処分所得を増やし、消費が活性化され、経済成長を支えていく。といったように「分配」を確実に行うことを中心とした成長戦略を基本としています。その分配には「所得への分配」「地方への分配」「将来世代への分配」の3つを日本経済再生の要として掲げて、国会での論戦に挑んでいます。

特に「将来世代への分配」は、岸田政権からは具体策が出てきませんが、私たちは児童手当の拡充、子育て支援の強化、教育の負担軽減、給付型奨学金の拡充などを通じて、働く人々を中心にとした中間層の可処分所得の拡大を図っていきたくと考えています。



松山産業政策委員長

分配については、私たち労働組合としては賃上げ交渉を会社と行っています。私たちが働く者に適切な分配が行われないことは、市場の縮小にも繋がるといった中長期的な視点も持つて取り組んでいくべきと改めて感じました。賃上げの実現は個別の労使交渉によつて決まることが基本ですが、新自由主義的発想の過度な株主偏重から労働者がより生活しやすい社会への転換が実現されるよう、泉代表のご活躍に大いに期待をしています。

白山社会政策委員長

輸入の仕事をしている組合員から、過去は一級品の食材を輸入できていたが、今では同じ価格だと二級、三級品になつてしまふこともあるという話を聞きました。その背景には、世界の物価高のなかで、日本では消費財に費やすことのできる可処分所得が上がつていないことがあり、ゆとりある所得のもとで安心して買物ができる世の中にしていかななくては、健全に物価も上がらないし、安い日本から抜け出せなくなり、知らない間に食べ物に粗悪になる、それさえも手に入らないという事態になつてしまふと危機を感じます。

泉

昨今の円安や物価高のなかで、多くの原材料を海外から輸入している食品産業は特に影響が大きいのではないのでしょうか。そういった原材料などのコスト増を企業努力で飲み込み、労働者への分配さえも抑えてしまふ悪循環ではなく、適正に価格転嫁し、その価格をゆとりを持って購入できる好循環の社会を築いていかななくてはなりません。

「食」を適正に評価する社会を目指して

松山

価格転嫁については、政府も公正な取引関係において適正に価格転嫁を実施できるように様々な施策を打ち出していますが、食品産業では過去から小売業や卸業との取引において「優越的地位の濫用行為」を受けることが多くあり、フード連合の産業政策としても力をを入れて取り組んでいます。特に今年度は、原材料価格等の上昇に伴つて希望小売価格の引き上げを表明する食品メーカーが多数出ており、フード連合の加盟労組の組合員も価格転嫁に関する取引現場において、不当な理由で価格が据え置かれるなど、不公正な取引と思われる事例がいくつか上がってきました。私たちは、食品が生産者から消費者に届くまでのフードバリューチェーン全体で、それぞれが生み出した価値が公正・適正に付加されるように取引の健全化を図り、消費者の豊かで健康な食生活の実現を目指しています。特に中小企業は、大手企業ほどの交渉力も持ちえず、品目数も少ないので、このまま価格転嫁が難航すれば事業継続すら危ぶまれ、労働者の賃金等の人件費抑制や削減に繋がりがかねないこと、さらには雇用にも大きな影響を及ぼすことが危惧されます。こういった実態を私たちも関係省庁へ伝えていきますが、野党の側からも政府や省庁に伝えていただき、多方面からの解決を図りたいと思います。

泉

国民が消費ニーズにあった商品を選択できるようにするために、事業者間の公正で自由な競争を促進する法律が定められているので、法律の主旨に沿わない実態は、個別の案件についても政治が、特に生活者の視点から大切にする立憲民主党が、関係する省庁への確認や注意喚起をしていく役割を持つていきます。また、食品産業の健全な発展のために政治と労働組合が連携をして改善を進めていく橋渡し役として政策顧問を担わせていただいているので、ぜひ具体的な事例もお伝えください。

松山

力強いお言葉ありがとうございます。今回の調査で、特にパン製品を扱う組合員から価格転嫁の商談が難航している声と比較的多く上がってきました。小売店様も顧客を維持・確保していくためには価格競争をせざるを得ないこともあり、お客様が購入する頻度の高い商品は販売価格を上げづらい状況があるのかもしれないと推察しています。

泉

日々の買い物で少しでも安くしたい、という消費者心理が強く表れているのかもしれませんが、その内容量を減らすステルス値上げなどと言われていますが、企業は相当に努力をされていると思います。本質的にはしっかりと価格転嫁できる施策と同時に、購買力を落とさないように消費者の分配を政策としても進めなければ、日本の豊かな食は守れないと改めて考えさせられました。

松山

価格転嫁も含めた公正な取引関係の構築については毎年、UASEN様と協力して、営業担当の組合員に取引の実態を調査し、明らかになった不公正な取引を是正するように公正取引委員会などへ要請を仰つてきました。過去から問題視している「不当な労務提供」押付け販売」は若干の改善傾向であるものの、まだまだ現場では苦しい組合員が大変多くなる状況です。こういった行為が根強く残つてしまつている理由の一つに、小売業や卸業もですが、食品メーカーの会社側や営業担当者も違法行為である認識が薄いということもあるように思います。昨年末に農水省が「食品製造業・小売業の適正取引推進ガイドライン」を新たに策定しましたが、こういった問題となる取引や望ましい取引をしっかりと周知していく必要性を感じています。

泉

食品を適正な価格で評価しないと国民生活や産業にどういった影響があるのか、バリューチェーンの各ポイントでは正すべき慣行とは何か、などを政治家や官僚、業界団体にも広く問題提起する方法としてシンポジウムを開催するという手もあります。政策顧問としてもお力になれるので、ぜひ今後も連携していきましょう。



多様性を認め合う共生社会へ

白山 フード連合では、年金、医療介護、子ども・子育て支援のいわゆる社会保障関連を、社会政策と位置付けています。今年度からは、新たな社会政策として加えるべく、ジェンダー・SOGI・LGBTQ関連のいわゆる同性婚パートナー等の課題、外国人労働者を取り巻く課題、そして障害を抱える労働者を取り巻く課題に関する3点を、検討を進めているところで

ジェンダー関連では、現状ではいわゆる事実婚、同性婚について法的には認められていない中ですが、昨今は全国で、パートナーシップ制度を導入する自治体が増加してきており、行政サービスの拡充なども図られています。企業でも配偶者要件として同制度の活用検討や、同性パートナーを配偶者として認め、会社の福利厚生生の適用範囲として改定するなどの取り組みも進んでいます。多様性を認め合う共生社会を目指す立憲民主党として、あるいは泉代表としてのお考えがあればお聞きかせください。

泉 党の綱領でも掲げているとおり、多様な性自認や障がいがある中でも、多様な価値観や生き方を認め、互いに支え合いつつ、すべての人に居場所と出番のある共生社会を築いていきたいと思います。同性婚や事実婚についてパートナーシップ制度の導入が全国の自治体で進んでいることは意義ある前進と捉えています。しかし、立憲民主党としてはもっと踏み込み、そもそも根本的に法律を改正して、同性婚など様々な婚姻の形が認められる社会にしていきたいと考えています。この点でも政府に対してさらなる議論がなされるよう提起するなど、引き続き取り組んでいきたいと考えています。



白山 同性パートナーについては

フード連合の加盟労組でも状況は様々ですが、組合における慶弔見舞金等の制度改定や、会社の慶弔関連制度のあり方を労使協議するなど進めているところです。そのような中で、法制化が実現すれば、法律に則った議論が進むので大変ありがたいです。

泉 法制化に向けた議論は、ゆつくり時間をかけて進めていくものではなく、すでに実現すべき段階に入っていると思いますので、より

積極的に進めていくべきですね。本来であれば東京オリンピックの前に成立すべきであったLGBT関連法案等のこともあり、むしろ大幅に遅れているのではないかと感じています。ぜひそれぞれの立場から、同性婚等の法制化に向けて一緒に進めていきたいと思います。

白山 ぜひ引き続き宜しくお願いします。多様性に関連して、外国人労働者を取り巻く課題についてですが、技能実習生を中心に、企業における外国人労働者の受け入れは、食品業界においても益々増加している状況です。外国人技能実習生制度は本来、開発途上国などから来た実習生が日本で技能、技術、知識を身に付けて母国へ持ち帰ることで、そういった開発途上国等の経済発展を担う、実態としては労働力の補充の意味合いが強くなってしまっているように思います。フード連合でも多くの技能実習生を受け入れている業種がありますが、今後ますます増加が見込まれる中で、彼らの労働条件、就労環境の整備等はもちろんのこと、日本の生活者として、共に生きる仲間として、政府においても総合的なより深い議論が必要であると考えています。

泉 外国人労働者、特に技能実習生については、昨今の労働力不足を背景とした技能実習生依存のような状態が起こっているという聞いており、これは問題があると認識しています。母国の経済発展に繋げるのであれば、受け入れ側の都合で断片的な工程に就かせるのではなく、産業の総合的な技術や知識を身に付けるべきです。技能実習生側も本来の目的から外れ、労働力不足な日本で就業することによって本国へ送りを行うことが前提になっており、どうしても賃金が最優先になっているという実態もあるのではないのでしょうか。党としては、技術的な外国人労働者の権利が国内労働者と同じように再検討しており、外国人労働者の権利が国内労働者と同様に保障され、保護されるような多文化共生社会を目指していますので、引き続き現場の声に耳を傾けながら、議論を進めていきます。

白山 障がいを抱える労働者については、当然ながらフード連合加盟組織でも活躍いただいています。昨今課題としては法定雇用率が民間企業で2.3%に引き上げられましたが、各企業での雇用率を上回るよう、取り組みが進められているかと思えます。一方で、罰則を払うことを是として、あえて障がいを抱える方の雇用を避ける企業も出てしまっているのではないかと危惧しています。

泉 障がいを抱えた方も含めて多様な人材が集い活躍している会社から、多様な社会に受け入れられる商品やサービスのアイデアが生み出せるようになるのではないのでしょうか。ただの数合わせではなく、改正障がい者雇用促進法の理念に基づいて、きちんとした運用が行われるべきなので、法定雇用率を下回った場合の罰則のあり方など、もっと議論が必要ですね。関連して、障がい者の内訳として身体、知的、精神の分類で分けられ、昨今増加していると言われるメンタルヘルズ不調者について、この方々をその分類に当てることで法定雇用率をクリアしている、と主張するような事例も聞いたことがあります。障がいに関係なく希望や能力に応じて社会参加できるように、党としても取り組みを進めていきたいと思えます。

白山 フード連合の新たな社会政策の取り組みとしても加盟組織の障がい者雇用に関する実態や、それを取り巻く就労環境の整備等の現場課題があればそれを集約し、現場の声としてお伝えしていきますので、引き続きの連携を宜しくお願いします。



フード連合の仲間と共に

松山 最後に、非常に厳しい環境ながらも消費者に「食」を楽しんでいただけるよう日夜努力している全国の仲間へ激励のメッセージをお願いします。また今年度は、第26回参議院議員通常選挙が行われます。大変厳しい選挙戦となりそうですが、意気込みなどもお聞きください。

泉 フード連合の仲間の皆さんには、コロナ禍において社内や工場など職場での感染対策をしながら、日々の食品を提供し続けていただいていることに大変感謝しています。本日の意見交換を通じて、新体制になった立憲民主党は引き続きフード連合の仲間の皆さんに「一番近い政党である」と改めて認識いただけたのではないのでしょうか。自民党一強体制では働く立場の人の声が国政へ届かなくなってしまうと思います。私たちは、経営者の発想ではなく、働く者の発想で皆さんの立場を守る政党へ、また批判だけではなく政策提案型の政党となることを目指して、新体制で心を新たにしています。夏の参議院議員選挙では、フード連合としてJP労組の柴慎一さんを応援していただくこと、大変心強く思っています。ぜひ自民党に変わる選択肢として、皆さんに「一番身近な政党」として、引き続きの「支援を宜しくお願いいたします。私たちが皆さんの職場や働く環境を守るために全力で応援していきますので、体に気を付けて共に頑張りましょう。